

SSM（ストレス・ストレングス・モデル）理論について

SSM 理論は、株式会社構造化知識研究所 代表工学博士 田村泰彦氏により提唱されている、不具合に関する知識運用のための解析モデルです。不具合の因果連鎖の構造知識に基づいて、体系的に獲得された構造化知識を、不具合の予測的解析に有効に活用するための方法論が提案されています。

「SSM 構造化知識」が、不具合発生の因果関係を明らかにし不具合発生の可能性をも示唆しますので、まだ起きていない新たな問題の予測と対策ができるようになります。まったく新たな問題は誰にも予測することはできません。しかし何らかの予測ができるものは、必ず過去の経験・知識を利用し類推しているはずで

SSM 理論に基づき抽出したデータは、FMEA における不具合項目の抽出、設計基準、不具合事例などに活用され、新たな不具合を未然に防止します。

参考情報

SSM を支援する「Alize」というソフトがジャストシステムから出ています。価格は 1000 万円～、かなり高いですね。

<http://www.justsystems.com/jp/news/2005/1/news/j09261.html>